ICF(国際生活機能分類)からみた介護予防のアセスメントの視点例

*	∢ICF (International Classification of Functioning, □	(建事)子能	人の抱える課題は様々な要因 関連して起こっていることを意 いながら分析することが大切。
	心身機能・構造 □睡眠の内容(不眠、中途覚醒、服薬の有無)□栄養(増加、減少、嗜好、水分摂取状況)□視覚・聴覚・痛みと日常生活の支障の程度□□腔機能と衛生□排尿・排便障害□筋力□全身持久力□精神面(抑うつ、認知機能)	● お動 (屋内・屋外歩行) □運搬動作 □洗髪・洗身 □爪切り・耳掃除 □	参加 小出先の有無 趣味活動 反人・親戚の交流 也域の居場所 日中の活動の有無 での他()
	環: □家族構成及び家族の健康と □経済状況 □公共交通機関等へのアクセス □よく利用していた社会資源 □医療・保健・福祉サービス □その他(へ思 □ 3kk・税成との交流、フながり □ 性格 □ 価値観 □ 性格 □ 価値観 □ ス □ 外出手段	子]趣味・嗜好]職歴 など

生駒市作成資料を改編 2020.1.28今治市